

# 血液浄化療法部

## 1-1 構成員

平成29年3月31日現在

教授	0人
病院教授	1人
准教授	0人
病院准教授	0人
講師(うち病院籍)	0人 (0人)
病院講師	0人
助教(うち病院籍)	0人 (0人)
診療助教	1人
特任教員(特任教授、特任准教授、特任助教を含む)	0人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生(うち他講座から)	0人 (0人)
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員(教務職員を含む)	2人
その他(技術補佐員等)	0人
合 計	4人

## 1-2 教員の異動状況

加藤 明彦(病院教授)(2012年6月1日～現職)  
小野 雅史(診療助教)(2015年4月1日～2016年9月30日)  
辻 尚子(診療助教)(2016年10月1日～現職)

## 2 講座等が行っている研究・開発等

1	(1)研究・開発等のテーマ名	腎臓病患者におけるサルコペニアおよび体脂肪量評価の研究
	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略	本研究は、急性腎障害(AKI)および慢性腎臓病(CKD)患者における栄養指標のうち、臨床的にもっとも重要である骨格筋量の減少(サルコペニア)と体脂肪量について、実臨床で実践可能なCTによる計測法(大腿中央部の筋肉横断面積とL3レベルにおける内臓脂肪面積)を用いて分析・解明したものである。この解析法は、標準的な評価法であるDEX法やBIA法と比べて体液量の影響を受けないという利点があり、本法を用いることでAKIおよびCKD患者におけるサルコペニアや内臓肥満の実態を明らかにできる。
	(3)前年度までの状況	これまで、本法にて評価した大腿部筋肉量の減少および内臓脂肪面積の増加が動脈硬化病変と関連することを示すことができた。(Cachexia Sarcopenia Muscle 5(3):247-9, 2015, Pulse (Basel) 3(2):89-97, 2015)
	(4)当該年度内の進捗	日本透析医学会統計調査委員会の全国データを用い、間接的な筋肉量指標として血清クレアチニン(中2日の透析前に採血)を用いて、血清クレアチニンと1年予後の関連を後ろ向きに調査した。その結果、体格係数(BMI)と無関係に、血清クレアチニン値が高いほど生命予後が良く合併症の発症が少なく、血清クレアチニンが予後予測因子として重要なことを発表した。(PLoS One 11(3): e0150003, 2016)
	(5)翌年度の方針と予想	今後は、日本肝臓学会から提唱されたサルコペニア指標のL3レベルにおける両腸腰筋横断面積(長軸×短軸)が、透析患者のサルコペニアの指標としても有用かについて、検討する予定である。

## 3 論文, 症例報告, 著書等

	平成28年度
(1)原著論文数(うち和文のもの)	9編 ( 0編 )
そのインパクトファクターの合計	27.607
(2)論文形式のプロシーディングズ及びレター	0編
そのインパクトファクターの合計	0.000
(3)総説数(うち和文のもの)	15編 ( 15編 )
そのインパクトファクターの合計	0.000
(4)著書数(うち和文のもの)	14編 ( 14編 )
(5)症例報告数(うち和文のもの)	2編 ( 0編 )
そのインパクトファクターの合計	0.832

### (1) 原著論文

#### A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Tsuji N, Tsuji T, Ohashi N, <u>Kato A</u> , Fujigaki Y, Yasuda H. Role of Mitochondrial DNA in Septic AKI via Toll-Like Receptor 9. J Am Soc Nephrol. 27(7): 2009-20 2016.	8.491

論文数(A)小計 1 うち和文 0 IF小計 8.491

#### B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Isobe S, Ohashi N, Ishigaki S, Tsuji T, Sakao Y, <u>Kato A</u> , Miyajima H, Fujigaki Y, Nishiyama A, Yasuda H. Augmented circadian rhythm of the intrarenal renin-angiotensin systems in anti-thymocyte serum nephritis rats. Hypertens Res, 39(5): 312-320, 2016.	3.208
2.	Ishigaki S, Ohashi N, Isobe S, Tsuji N, Iwakura T, Ono M, Sakao Y, Tsuji T, <u>Kato A</u> , Miyajima H, Yasuda H. Impaired endogenous nighttime melatonin secretion relates to intrarenal renin-angiotensin system activation and renal damage in patients with chronic kidney disease. Clin Exp Nephrol, 20(6): 878-884, 2016.	1.945
3.	Iwakura T, Fujigaki Y, Fujikura T, Ohashi N, <u>Kato A</u> , Yasuda H. Acquired resistance to rechallenge injury after acute kidney injury in rats is associated with cell cycle arrest in proximal tubule cells. Am J Physiol Renal Physiol. 310(9): F872-F884, 2016.	3.390
4.	Ohashi N, Isobe S, Ishigaki S, Suzuki T, Iwakura T, Ono M, Fujikura T, Tsuji T, Otsuka A, Ishii Y, Furuse H, <u>Kato A</u> , Ozono S, Yasuda H. Plasma soluble (pro)renin receptor reflects renal damage. PLoS One, 11(5): e0156165, 2016.	3.057
5.	Ohashi N, Isobe S, Ishigaki S, Suzuki T, Motoyama D, Sugiyama T, Nagata M, <u>Kato A</u> , Ozono S, Yasuda H. The effects of unilateral nephrectomy on blood pressure and its circadian rhythm. Intern Med, 55(23): 3427-3433, 2016.	0.832

6.	Ichikawa H, Sugimoto M, Sakao Y, Sahara S, Ohashi N, <u>Kato A</u> , Sugimoto K, Furuta T, Andoh A, Sakao T, Yasuda H. Relationship between ghrelin, Helicobacter pylori and gastric mucosal atrophy in hemodialysis patients. World J Gastroenterol, 22(47): 10440-10449, 2016.	2.787
----	--	-------

論文数(B)小計 6 うち和文 0 IF小計 15.219

**C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの**

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Sada H, <u>Kato A</u> , Sumimoto R, Ohmori H, Ohdan H. Int Urol Nephrol, 48(8): 1377-1378, 2016.	1.292
2.	Sakao Y, Sugimoto M, Ichikawa H, Sahara S, Tsuji T, Ohashi N, <u>Kato A</u> , Fujigaki Y, Sugimoto K, Furuta T, Sakao T, Yasuda H. Severity of gastric mucosal atrophy is the major determinant of plasma ghrelin level in hemodialysis patients. Am J Nephrol, 44(3):224-233, 2016.	2.605

論文数(C)小計 2 うち和文 0 IF小計 3.897

**(3) 総説**

**A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの**

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	<u>加藤明彦</u> , CKD患者における老化とサルコペニア, 腎臓内科・泌尿器科, 3, 352-362, 2016	0.000
2.	<u>加藤明彦</u> , サルコペニアと慢性腎臓病, 最新医学 別冊 診断と治療のABC, 112, 114-122, 2016	0.000
3.	<u>加藤明彦</u> , 透析患者の食事療法, 腎と透析 診療指針2016 80(増刊号), 564-567, 2016	0.000
4.	<u>加藤明彦</u> , 認知症透析患者に対する運動療法, 腎と透析 32, 1031-1037, 2016	0.000
5.	<u>加藤明彦</u> , プロトンポンプ阻害薬の長期服用はCKD発症の危険因子である, 臨床透析, 32, 1192-1194, 2016	0.000
6.	<u>加藤明彦</u> , 適正透析の実際 栄養指導, Clinical Engineering, 27, 858-866, 2016	0.000
7.	<u>加藤明彦</u> , CKD患者における非活性型ビタミンD製剤の意義, 臨床透析 32, 83-88, 2016	0.000
8.	小野雅史, <u>加藤明彦</u> , 高尿酸血症から腎障害を発生するって本当?, Nutrition Care, 9, 936-937, 2016	0.000
9.	小野雅史, <u>加藤明彦</u> , 高尿酸血症から動脈硬化症を発生するって本当?, Nutrition Care, 9, 939-940, 2016	0.000
10.	<u>加藤明彦</u> , CKDの生活習慣と栄養, 日腎会誌 59, 5-10, 2017	0.000
11.	<u>加藤明彦</u> , 慢性腎臓病 生活・食事指導マニュアル～栄養指導実践編～, 日内会誌 106, 266-271, 2017	0.000
12.	<u>加藤明彦</u> , 北谷直美, FORUM「糖尿病と栄養の最前線」, Diabetes Update 6: 112-117, 2017	0.000

総説数(A)小計 12 うち和文 12 IF小計 0.000

**B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)**

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	磯部伸介, <u>加藤明彦</u> , 低栄養(原因、評価), 腎と透析, 80, 703-707, 2016	0.000

総説数(B)小計 1 うち和文 1 IF小計 0.000

**C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの**

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	山川智之, 宮崎真理子, 赤塚東司雄, <u>加藤明彦</u> , 橋本寛文, 隈 博政, 鈴木一裕, 山家敏彦, 安藤亮一, 経験に学ぶ南海トラフ巨大地震の災害対策 透析会誌, 49, 627-632, 2016	0.000
2.	福沢嘉孝, 吉富 淳, 森田純仁, 白木 亮, <u>加藤明彦</u> , 春田純一, 村上雅子, 多久佳成, 内科疾患と栄養療法 日内会誌, 106, 133-142, 2017	0.000

総説数(C)小計 2 うち和文 2 IF小計 0.000

**(4) 著書**

**A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの**

	著者: タイトル, 出版社名, 巻, 初頁-終頁(頁数), 発行年.	IF
1.	<u>加藤明彦</u> , CKD患者では、どうして栄養と運動療法について考える必要があるのですか?, いまさら訊けない! CKD患者栄養・運動療法の考えかた, やりかたQ&A, 中外医学社, 1-4, 2016	/
2.	<u>加藤明彦</u> , MIA症候群, MICS, PEWの用語の違いは何ですか?, いまさら訊けない! CKD患者栄養・運動療法の考えかた, やりかたQ&A, 中外医学社, 80-83, 2016	/
3.	<u>加藤明彦</u> , 地中海食とはどんな食事ですか? また、CKD患者に有用ですか?, いまさら訊けない! CKD患者栄養・運動療法の考えかた, やりかたQ&A, 中外医学社, 149-152, 2016	/
4.	<u>加藤明彦</u> , 栄養状態の測定・評価方法, CKD・透析患者の食事療法と運動療法, 医薬ジャーナル社, 172-178, 2016	/
5.	<u>加藤明彦</u> , 栄養評価(SGA, MSA, GNRI), 透析患者診療に役立つ診断と重症度判定のためのアプローチ, 日本メディカルセンター, 30-33, 2016	/
6.	<u>加藤明彦</u> , サルコペニア, フレイル, 透析患者診療に役立つ診断と重症度判定のためのアプローチ, 日本メディカルセンター, 34-36, 2016	/
7.	<u>加藤明彦</u> , Protein-energy wasting, 悪液質, 透析患者診療に役立つ診断と重症度判定のためのアプローチ, 日本メディカルセンター, 212-215, 2016	/

8.	加藤明彦, 栄養と運動療法～サルコペニアを含めて～, 透析運動療法 健康寿命を実現するために, 医薬ジャーナル社, 77-84, 2016	
9.	加藤明彦, 透析患者はどのタイミングで採血し, 検査結果はどう解釈すればよいですか?, そうだったんだ! 透析患者 外来・入院診療で迷わないための35のアドバイス, 文光堂, 81-87, 2016	
10.	加藤明彦, 炭酸水素ナトリウムの投与は造影剤腎症の発症予防に有用ですか?, 薬剤性腎障害(DKI)診療Q&A, 診断と治療社, 128-130, 2017	
11.	加藤明彦, 造影剤腎症が発症した場合, どのように対処したらよいでしょうか?, 薬剤性腎障害(DKI)診療Q&A, 診断と治療社, 131-133, 2017	
12.	辻尚子, 辻孝之:臨床所見・徴候からのアプローチ 味覚異常, 透析患者診療に役立つ診断と重症度判定のためのアプローチ, 日本メディカルセンター, 28-29, 2016.	
13.	辻尚子, 安田日出夫, エンドトキシン吸着の適応疾患, 実際の治療法, 治療中の注意点はなんですか? そうだったんだ! 透析患者 外来・入院診療で迷わないための35のアドバイス, 文光堂, 181-186, 2016.	

著書数(A)小計 13 うち和文 13

**B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)**

	著者: タイトル, 出版社名, 巻, 初頁-終頁(頁数), 発行年.	IF
1.	石垣さやか, 加藤明彦, 腎臓, Visual 栄養学テキスト, 人体の構造と機能および疾病の成り立ち I, 解剖生理学, 中山書店, 78-86, 2016	

著書数(B)小計 1 うち和文 1

**C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの**

著書数(C)小計 0 うち和文 0

**(5) 症例報告**

**A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの**

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Akihiko Kato, Takako Takita, Mitsuyoshi Furuhashi, Hypersensitivity reactions to acetate in the bicarbonate dialysate in a patient undergoing pre-dilution online hemodiafiltration, CEN Case Rep 5, 31-33, 2016	0.000

症例報告数(A)小計 1 うち和文 0 IF小計 0.000

**B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)**

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Iwakura T, Fujigaki Y, Katahashi N, Sato T, Ishigaki S, Tsuji N, Naito Y, Isobe S, Ono M, Sakao Y, Tsuji T, Ohashi N, Kato A, Miyajima H, Yasuda H, Membranous nephropathy with an enhanced granular expression of thrombospondin type-1 domain-containing 7A in a pregnant woman. Intern Med, 55, 2663-2668, 2016	0.832

症例報告数(B)小計 1 うち和文 0 IF小計 0.832

**C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの**

症例報告数(C)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

**4-1 特許等の知的財産権の取得状況**

	平成28年度
特許等取得数(出願中含む)	0 件

**4-2 薬剤、医療機器等の実用化、認証、承認、製品化、販売等の状況**

	平成28年度
実用化、認証、承認、製品化、販売数	0 件

**5 医学研究費取得状況**

	平成28年度	
	件数	金額 (万円未満四捨五入)
(1) 科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)	0 件	0 万円
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	0 万円
(3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	0 件	0 万円
(4) 科学技術振興機構(JST)による研究助成	0 件	0 万円

(5)他政府機関による研究助成	0 件	0 万円
(6)財団助成金	0 件	0 万円
(7)受託研究または共同研究	0 件	0 万円
(8)奨学寄附金	4 件	140 万円

## 6 大型プロジェクトの代表, 総括

## 7 学会活動

	(1)国際学会	(2)国内学会
1)基調講演・招待講演回数	0 件	13 件
2)シンポジウム発表数	0 件	7 件
3)学会座長回数	0 件	8 件
4)学会開催回数	0 件	1 件
5)学会役員等回数	1 件	9 件
6)一般演題発表数	4 件	

### (1)国際学会等開催・参加

#### 5) 役職についている国際学会名とその役割

1. 加藤明彦、アメリカ腎臓学会 フェロー

### 6) 一般発表

#### 6-2) ポスター発表

1. Tsuji N, Tsuji T, Ohashi N, Kato A, Yasuda H. Distribution of neutrophil extracellular traps in the kidney suffering from myeloperoxidase-ANCA associated vasculitis with peritubular capillaritis. 50th Annual Meeting of American Society of Nephrology, 11月15日～20日、シカゴ(米国)
2. Kuma A, Uchino B, Kawashima M, Enta K, Kato A. Waist circumference and LDL-cholesterol and the incidence of chronic kidney disease in the healthy young- to middle-aged working men in Japan. 50th Annual Meeting of American Society of Nephrology, 11月15日～20日、シカゴ(米国)
3. Ishigaki S, Tsuji T, Ohashi N, Kato A, Hideo Y. Evidence of early enhanced effects of vasopressin type 2-receptor antagonist on sodium and potassium excretion. 50th Annual Meeting of American Society of Nephrology, 11月15日～20日、シカゴ(米国)
4. Isobe S, Ohashi N, Ishigaki S, Tsuji T, Kato A, Yasuda H. Nocturnal blood pressure variability is associated with renal arteriolar hyaline sclerosis in IgA nephropathy. 50th Annual Meeting of American Society of Nephrology, 11月15日～20日、シカゴ(米国)

### (2)国内学会の開催・参加

#### 1) 学会における特別講演・招待講演

1. 加藤明彦、透析患者のサルコペニアと貧血管理、第3回湘南透析研究会、湘南クリスタルホテル(藤沢市)、平成28年5月10日
2. 加藤明彦、透析患者のサルコペニアに対する栄養・運動療法と貧血管理、第5回北摂透析病診連携の会、新大阪江坂東急イン(吹田市)、平成28年5月26日
3. 加藤明彦、CKD患者のフレイルの現状と対策、香川CKD学術講演会、レクザムホール(高松市)、平成28年7月7日
4. 加藤明彦、CKD患者におけるサルコペニア対策、札幌血液・腎臓・膠原病セミナー2016、札幌プリンスホテル(札幌市)、平成28年7月15日
5. 加藤明彦、サルコペニア対策からみた糖尿病性腎症の食事・運動療法、糖尿病性腎症の進展抑制を考える会、京都テルサ(京都市)、平成28年7月28日
6. 加藤明彦、透析患者のサルコペニアに対する栄養・運動療法と貧血管理、第5回北摂透析病診連携の会、新大阪江坂東急イン(吹田市)、平成28年5月26日
7. 加藤明彦、透析患者のフレイル対策、第6回東富士腎セミナー講演会、レンブラントホテル厚木(厚木市)、平成28年10月25日
8. 加藤明彦、高齢者CKDのサルコペニア対策、第72回三多摩腎疾患治療医会、杏林大学大学院講堂(三鷹市)、平成28年11月6日
9. 加藤明彦、透析患者のフレイル・サルコペニア対策、第16回病診透析セミナー、メルパルク京都(京都市)、平成28年11月13日
10. 加藤明彦、透析患者のサルコペニアの現状と対策、透析学術講演会、ホテルプリシード(郡山市)、平成29年2月9日
11. 加藤明彦、透析患者のフレイル対策、第6回東富士腎セミナー講演会、レンブラントホテル厚木(厚木市)、平成28年10月25日
12. 加藤明彦、高齢者におけるサルコペニア対策、第23回大阪CKDエキスパート会議、スイスホテル南海大阪(大阪市)、平成29年2月10日
13. 加藤明彦、透析患者におけるフレイル対策、第35回城北腎疾患フォーラム、ホテルメトロポリトン池袋(東京都)、平成29年2月21日

## 2) シンポジウム発表

1.	加藤明彦、フレイル・サルコペニアに対する運動と栄養療法、第61回日本透析医学会学術集会・総会 ワークショップ1. 透析患者に対する運動療法、大阪市、平成28年6月10日
2.	加藤明彦、透析患者におけるサルコペニアの現状と対策、第61回日本透析医学会学術集会・総会 イブニングセミナー. 透析患者のADLと生命予後に重要な「筋肉」について、大阪市、平成28年6月10日
3.	加藤明彦、静岡県における東海地震の災害対策、第61回日本透析医学会学術集会・総会 学会・委員会企画5. 経験に学ぶ南海トラフ巨大地震の災害対策、大阪市、平成28年6月10日
4.	加藤明彦、早期診断と内科的治療、第59回日本腎臓学会学術総会 AKIガイドライン、横浜市、平成28年6月18日
5.	加藤明彦、腎疾患と栄養療法、第22回日本内科学会専門医部会東海支部教育セミナー. 内科疾患における栄養療法、浜松市、平成28年6月26日
6.	加藤明彦、CKDとサルコペニア、フレイル、第7回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会.、よくわかるシリーズ、つくば国際会議場(つくば市)、平成29年2月19日
7.	加藤明彦、CKD患者のサルコペニア、フレイルの現状と課題、第7回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会.、シンポジウム「サルコペニア・フレイルへの腎臓リハビリテーション的アプローチ」、つくば国際会議場(つくば市)、平成29年2月19日

## 3) 座長をした学会名

1.	加藤明彦、一般演題(口演)「栄養/炎症・低栄養・MIA症候群3」、第61回日本透析医学会学術集会・総会、大阪市、平成28年6月10日
2.	加藤明彦、ランチョンセミナー「後期高齢者CKDステージG3b~5Dの特徴と管理」、平成28年度透析療法従事職員研修、大宮市、平成28年7月16日
3.	加藤明彦、一般演題(口演)「血液透析」、第46回日本腎臓学会東部学術大会、東京都、平成28年10月8日
4.	加藤明彦、シンポジウム5「腎疾患と栄養の最前線」、第20回日本病態栄養学会年次学術集会、京都市、平成29年1月14日
5.	加藤明彦、ランチョンセミナー「腎性貧血は心疾患やフレイルに関連する?」、第7回透析運動療法研究会、福岡市、平成29年2月5日
6.	加藤明彦、一般演題5、第20回日本病態栄養学会年次学術集会、京都市、平成29年1月14日
7.	加藤明彦、一般演題(口演)「腎疾患1」、第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会、岡山市、平成29年2月23日
8.	加藤明彦、一般演題、腎臓病と栄養・代謝・食事フォーラム2017、東京都、平成29年3月25日

## 4) 主催した学会名

1.	第54回静岡腎セミナー(浜松市)、当番世話人、平成29年3月18日、参加者80名
----	--

## 5) 役職についている国内学会名とその役割

1.	加藤明彦、日本内科学会 総合内科専門医(1977)、東海地方会評議員
2.	加藤明彦、日本腎臓学会 専門医(93037)、指導医(1297)、評議員
3.	加藤明彦、日本透析医学会 専門医(1782)、指導医(850)、栄養問題検討ワーキンググループ委員、AKI診療ガイドライン作成委員会委員
4.	加藤明彦、日本病態栄養学会 病態栄養専門医・指導医、理事、腎臓病病態栄養専門管理栄養士委員会委員長
5.	加藤明彦、日本静脈経腸栄養学会 認定医、評議員、東海支部世話人
6.	加藤明彦、日本急性血液浄化学会 評議員、理事
7.	加藤明彦、日本医工学治療学会 評議員、理事
8.	加藤明彦、日本臨床薬理学会 評議員
9.	加藤明彦、日本腎臓リハビリテーション学会 代議員

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	(1)外国	(2)国内
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	1件	5件

### (1)外国の学術雑誌の編集

1.	加藤明彦、Nutrition Journal、Guest Editor、PubMed/Medlineの登録有、インパクトファクター3.265
----	--

### (2)国内の英文雑誌等の編集

1.	加藤明彦、Renal Replacement Therapy、Editorial Board、PubMed/Medline登録無、インパクトファクター無
2.	加藤明彦、日本透析医学会雑誌、編集委員、PubMed/Medline登録無、インパクトファクター無
3.	加藤明彦、臨床透析(日本メディカルセンター) 編集委員 インパクトファクター無
4.	加藤明彦、Nutrition Care(メディカ出版) 編集同人 インパクトファクター無
5.	加藤明彦、透析ケア(メディカ出版) 編集同人、インパクトファクター無

### (3)国内外の英文雑誌のレフリー

1.	加藤明彦、Renal Replacement Therapy(日本) 8回
2.	加藤明彦、Clinical Experimental Nephrology(日本) 7回

3.	加藤明彦、Internal Medicine(日本) 1回
4.	加藤明彦、Clinical Experimental Hypertension(英国) 3回
5.	加藤明彦、BMJ Case Reports(英国) 1回
6.	加藤明彦、Scientific Reports(英国) 1回
7.	加藤明彦、PLos One(米国) 2回
8.	加藤明彦、Therapeutic Apheresis and Dialysis(米国) 2回
9.	加藤明彦、Renal Failure(米国) 2回
10.	加藤明彦、International Journal of Clinical Pharmacology(ドイツ) 3回
11.	加藤明彦、Clinical Nutrition(ドイツ) 1回
12.	加藤明彦、Clinical Chemistry and Laboratory Medicine(ドイツ) 2回
13.	加藤明彦、American Journal of Nephrology(米国) 1回
14.	加藤明彦、Nephrology(オーストラリア) 2回
15.	加藤明彦、International Journal of Tryptophan Research(ニュージーランド) 1回
16.	加藤明彦、Nutritional Research and Practice(韓国) 1回

## 9 共同研究の実施状況

	平成28年度
(1)国際共同研究	0 件
(2)国内共同研究	2 件
(3)学内共同研究	2 件

### (2)国内共同研究

- 若年～中年男性勤労者における新規CKD発症の危険因子を明らかにする、JR東海静岡営業所健康管理センターおよびヤマハ発動機健康管理センター、平成28年4月～平成29年3月、資料の交換、研究者の派遣、Clinical Experimental Nephrologyに採択
- 透析患者におけるヘプシジン動態の研究、柳井医療センター、平成28年4月～平成29年3月、情報の交換、第61回日本透析医学会学術集會に発表

### (3)学内共同研究

- 浜松医科大学第一内科(腎臓内科)、資料の交換、研究者の派遣
- 浜松医科大学附属病院栄養部、資料の交換

## 10 産学共同研究

	平成28年度
産学共同研究	0 件

## 11 受賞

### 12 新聞、雑誌、インターネット等による報道

- 加藤明彦、透析時の連携密に 静岡県内関係者、訓練重ねる、2017年1月23日、静岡新聞
- 加藤明彦、エコミー症候群などの解説 災害前の対策提案、浜松医大病院、2017年1月25日、静岡新聞

### 13 その他の業績

- 加藤明彦、2016 JSPEN 臨床栄養セミナー東京 講師、栄養素の生化学・代謝、ベルサール品川(東京都)、平成28年6月18日
- 加藤明彦、TNT研修会東海地区 講師、藤田保健衛生大学(豊明市)、平成28年7月30～31日